

研究課題名	人工心肺の侵襲性について -従来型冠動脈バイパス術とオフポンプ冠動脈バイパス術の比較から-
実施責任者	所属・職名：心臓血管外科 部長 氏名：桑原 史明
研究の概要	心臓大血管手術に人工心肺は不可欠な生体機能代行装置です。しかし、人工心肺は人工肺、ポンプ、カイロなど非生理的な経路を血液が通過することによって、様々な生体反応を惹起し侵襲的です。そこで虚血性心疾患に対する血行再建の手術手技はほぼ同じですが、人工心肺を使用する従来型のオンポンプ冠動脈バイパス術(CABG)と、人工心肺を使用しないオフポンプ冠動脈バイパス術(OPCAB)の術後経過を比較することで、人工心肺の侵襲性について、すでに電子カルテ内にあるデータをもとに調査したいと思います。
実施の期間	西暦 2013年10月1日より 西暦 2018年9月30日まで
研究対象	上記期間中に当院で冠動脈バイパス術をうけられた患者様が対象となります。